

## 八木 3 丁目（溪流番号 I-1-9-303） 現地調査報告

1. 派遣依頼元
  - ・ 中国地方整備局及び広島県
2. 派遣の目的
  - ・ 捜索活動中の安全対策について広島市（安佐南区現地消防本部）から助言を求められたため
  - ・ 【(3) 捜索活動等の留意点】については 15 時半頃市消防に口頭伝達済
3. 調査日
  - ・ 平成 26 年 8 月 21 日（水）9 時から 12 時 30 分  
（災害発生日：平成 26 年 8 月 20 日）
4. 調査場所
  - ・ 広島市安佐南区八木三丁目（溪流番号 I-1-9-303、住宅地から 800m 上流まで）
  - ・ 左支川で崩壊地を確認。右支川は上流部の滝状になった流路の確認まで。
5. 調査者
  - ・ 国土技術政策総合研究所土砂災害研究部 蒲原潤一砂防研究室長、松下一樹土砂災害研究室主任研究官、大知寿徳中国地方整備局河川計画課調査第二係長（併任）砂防研究室
6. 調査概要
  - 【(1) 被災した住宅地周辺】
    - ・ 被災した住宅地のうち、溪流出口に近い住宅地周辺の勾配は約  $10^{\circ}$  あり、その上流側の溪流の勾配は約  $15^{\circ}$ 。被災した状況から土石流として住宅地に到達している。住宅地には巨石（3m 程度のものもあり）や流木などが流出している。細粒分も多く、広範囲に氾濫堆積している。現時点では、まだかなり飽和度の高い状態で、歩くのに困難な状態。
  - 【(2) 溪流の状況】
    - ・ 住宅地から上流の溪流は約  $15^{\circ}$  の比較的緩やかな区間と約  $25^{\circ}$  の急な区間が交互

に現れる。急な区間は滝状になっている。全区間にわたって基本的に侵食傾向であり溪床は露岩している。そのため、滝状に急勾配な区間については溪床に堆積している不安定な土砂はほとんど無い。

- ・ 調査範囲では小規模な天然ダム等の異常堆積は無かった。所々に溪岸侵食により不安定になった土塊がある。また、溪床が数 m 以上侵食されている区間もある。曲流部で土石流がせりあがって流下した痕跡がある。また、左右岸で一方の溪岸は露岩、一方の溪岸は流木等が堆積、あるいは表層土が残存しているなど状況が異なり、不安定な土砂が残存しているが少量の雨で動くような状況には見受けられない。
- ・ 左支川については源頭部の崩壊地状況が確認できた。崩壊の滑落崖は目視から大きく拡大するような兆候は見受けられなかった。また、崩壊地直下に堆積した土砂が残存しているが堆積物の量と堆砂勾配から少量の雨で動くような状況とは見受けられない。

### 【(3) 搜索活動等への留意点】

- ・ 上流では調査した範囲において、無降雨時に不安定化しそうな土塊はなかった。
- ・ 搜索活動場所については谷の出口で溪流からの土砂が集中する場所である。堆積した土砂で足元が悪く、流末の確保がされていない状況となっている。さらに、ところどころに不安定な土砂が残存している現状、及び右支川の最上流部について地上からの調査が済んでいない状況を踏まえ、溪流の濁りや流量の変化、雨量レーダーによる雨域の移動に注意しつつ活動をする必要がある。

【調査写真】



写真1 JR線路敷への土砂堆積状況



写真2 現在の溪流水流下状況



写真3 道路への流木堆積状況



写真4 家屋の被災状況



写真5 巨岩の堆積状況



写真6 巨岩の堆積状況





写真7 宅地上流側の流路付近の堆積状況



写真8 宅地直上流部の流路の表層土流出状況



写真9 宅地上流部の表層土流出と溪流辺縁部の堆積状況



写真 1 0 溪流周辺の不安定土塊肩の状況



写真 1 1 溪床堆積物の流出状況



写真 1 2 溪床土砂の流出状況





写真 1 3 溪岸の残存土塊の状況



写真 1 4 崩壊地の状況



写真 1 5 崩壊地脚部の土砂残存状況



写真16 上流部流路の状況